

Q3. 会議の成果はどのように生かされているの？

A3.

WAW!自体は、特定の政策や取り組みを実施する場ではありません。会議で議論された内容をできるだけ多くの人に知ってもらうことが大切なのです。そのため会場には傍聴席を設けており、今回は、学生や一般の方など約800人が議論に耳を傾けました。さらに、分科会での意見を集約した上で和文・英文の提言としてまとめ、それを外務省のホームページなどから全世界に発信しています。こうした広報・啓発活動には、これからますます力を入

れていかなければなりません。

また、女性分野に関する当事者として、私たち自身がWAW!で出た意見を、今後の政策づくりなどの参考にしていきたいと思っていますし、他の国の参加者にも同様に役立ててもらえることを期待しています。女性が暮らしやすい社会は、男性にとっても暮らしやすいのではないのでしょうか。WAW!を通じて、全ての人が多様な選択肢を持ち、活躍できる社会の実現へと近づいていくことが願いです。

Q1. 国際女性会議WAW!って何？

A1.

「国際女性会議WAW!(World Assembly for Women)」は、女性分野に関する日本の取り組みを国内外に発信するため、安倍晋三内閣総理大臣のイニシアチブの下、2014年から毎年開催されています。この会議には、日本や世界のさまざまな地域、国際機関から女性分野で活躍するトップリーダーや実務家の方々が集まり、女性を取り巻く課題について、肩書きを超えて自由に議論を交わします。よく議題に挙がるテーマには、仕事と家庭の両立をはじめとする「ワーク・ライフ・バランス」や、和平プロセスやコミュニティの再建といった「平和安

全保障への女性の参画」などがあります。他にも、出産などに関するリプロダクティブ・ヘルスや、シングルマザーといった困難な状況にある女性の問題など、幅広いテーマを取り上げてきました。

女性をめぐる課題は、開発途上国にも先進国にも存在しています。途上国の参加者に、会議で議論したことを母国での取り組みに生かしてもらうことはもちろん狙いの一つですが、同時に日本にとっても、海外の優れた政策を学んだり、女性分野に関するネットワークを構築できたりするという意味で、WAW!は非常に有益だと考えています。

Message from Ethiopia

日エチオピア友好のシンボルとなる女性の自立支援

貧困のイメージが強いアフリカ大陸において、過去10年間連続で2桁といわれる経済成長率を記録し、目覚ましい発展を遂げているエチオピア。人口の7割が30歳以下といわれており、若く活気に満ちた国です。経済成長の中心地である首都アディスアベバでは、週末返上での建設ラッシュが続き、高層ビルや道路などのインフラ整備が着々と進んでいます。



職業訓練センターでNGOのスタッフから指導を受ける女性

しかし、目覚ましい経済発展とは裏腹に、依然として貧困問題を抱えていることも事実です。人口300万人を擁するアディスアベバでは、その1割に当たる30万人もの人々が、経済的自立が難しい女性を戸主とする世帯とみられています。貧困層の女性は、家族を養うために、森で拾ってきた薪を売ってわずかな日銭を稼ぐか、メイドとして湾岸諸国などに出稼ぎに行かざるを得ない状況に立たされていることが多いのです。

こうした状況を改善するために、日本政府は、アディスアベバで経済的な困難を抱えている寡婦やシングルマザーの自立を支援する現地のNGO「サラム子どもの村(Selam Children Village)」に対し、2015年から草の根・人間の安全保障無償資金協力を活用した職業訓練センターの建設を支援しています。縫製技術の習得によって女性の経済的自立を実現することが狙いです。衣類の生産をはじめとする繊維分野は、皮革製品や農産加工品と並び、エチオピアのさらなる経済成長を後押しする有望な輸出品の一つです。この支援によって多くの女性が職業訓練を受けられるようになり、経済的に脆弱な立場に置かれている女性の雇用の促進が期待されています。

(在エチオピア日本国大使館)

Q2. 具体的にどんな議論が行われているの？

A2.

昨年12月には、3回目となるWAW!が2日間にわたって開催され、日本の他に、26カ国・11国際機関から93人が参加しました。初日の公開フォーラムでは、安倍総理のスピーチに続き、インスタグラムのマーニー・レヴィーン最高執行責任者が基調講演を行い、ICTを活用した先端的な働き方について自身の経験を交えて話しました。また、昨年は初めて「スポーツと女性」をテーマに、レスリングの伊調馨選手や、陸上の辻沙絵選手らによるパネルディスカッションを行いました。

2日目には、参加者が5つのテーマの分科会に分かれて、それぞれで各国の課題や取り組みを共有し、解決策を話し合いました。例えば、ワークライフ・マネジメントに関する分科会では、ICTを活用することで在宅勤務などが可能になる「テレワーク」について議

論が及びました。その中で、ウガンダの参加者からの意見によって、電力インフラが整備されていない国では導入が難しいという気付きが生まれ、そうした国の状況を加味したより広い視野での議論につながりました。

一方、理系分野における人材育成に関する分科会では、理系の大学などに進む、あるいは理系の職種で活躍する女性が少ない問題は、日本だけでなく他の国でも共通していることが分かりました。女性は理系分野が苦手だという思い込みや偏見を打破し、意識改革を進めることが重要だという問題意識は、世界全体で共有されています。その解決には、母親の理解が特に重要だという興味深い意見もありました。

このように、日本の関係者だけの議論では出ないようなさまざまな角度からの意見を聞けるところが、WAW!の最大の特長だと感じています。

POINT

- 1 国際女性会議WAW!は、日本の女性分野の取り組みを国内外に発信するために始まった
- 2 女性を取り巻く課題を、さまざまな参加者と多角的に議論できるのがWAW!の特長
- 3 WAW!で議論された内容を、多くの人に知ってもらうための広報活動にも力を入れている

テーマ ワウ 国際女性会議WAW!

外務省 総合外交政策局
女性参画推進室 室長

北郷 恭子

Kyoko HOKUGO

1995年外務省入省。経済局、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部、在ベルギー日本国大使館などを経て、昨年6月より現職。昨年12月に行われた第3回国際女性会議WAW!(WAW! 2016)を成功に導く。

昨年12月の第3回国際女性会議WAW!でスピーチを行う安倍総理



「ワークライフ・マネジメント」がテーマの分科会の様子

ココエシワ

「ここが知りたい」。国際協力に関する政策を外務省の担当者が分かりやすく解説します!

